☆作業日あれこれ

定例作業日も 10 月ともなれば気温も下がり、快晴で気持ちの良い作業日和でした。

観察会は三平ﾓﾄﾞｷ担当、昨年もこの時期は彼の担当でﾄﾞﾝｸﾞﾘを使用したﾄﾞﾝｸﾞﾗｯｾなるお菓子まで用意して臨んだのですが、残念ながら今回試食はありませんでした。観察会は『なぜﾄﾞﾝｸﾞﾘにはなり年とそうでない年があるか』という問題提起からはじまりました。考えられる理由として、

クズをひっぱれ！

①気象的な問題
②大量の実を付けると翌年は木が疲れるから
　…これは、果樹で経験している理由です。
③捕食者数の増加抑制
　…安定して毎年実を付けると、それを餌にする動物も順調に増えてやがて全部の実が食べられてしまうようになり木が子孫を残せなくなるので、増え過ぎた捕食者が餌が少なく飢えて数を減らすように実のならない年があるのだという説です。

縄文中期(5 千年前から)に日本列島の人口は縄文時代最大の 27 万人程になりましたが、その後人口は減少して晩期(3 千年前から)には 10 万人をきったようです。気候変動とか病気の蔓延とか言われていますが、一つの理由にそれまでの狩猟やﾄﾞﾝｸﾞﾘに依存した食生活から食べやすく味の良いｸﾘの栽培が行われ食料の中心になったことも一因だという説もあります。この森での経験ではｺﾅﾗやｸﾇｷﾞなどのﾄﾞﾝｸﾞﾘには極端な不作の年はありませんが、ｼﾊﾞｸﾞﾘを拾いまわった幼少期の記憶では野生のｸﾘには実が少ない年があったように思っています。ﾌﾞﾅは数年に一度しか実を付けず、細々と生き延びている捕食者は大量のﾌﾞﾅの実が落ちた後しか数を増やすことができず、それも翌年には実が落ちず再び飢えて数を減らすわけで説得性のある説です。三平ﾓﾄﾞｷは西日本のﾄﾞﾝｸﾞﾘはなり年が明瞭でないけれど、東日本ではあるのだと付け加えていました。

続いての話は、『先天的 DNA 配列の変化によらないｴﾋﾟｼﾞｪﾈﾃｨｸｽの話』でした。分かりやすく説明すると誕生して後に獲得した餌が豊富にあったから大きくなったとかの形質は遺伝しないとして否定されたﾗﾏﾙｸの法則が部分的には正しいかもしれないということのようですが、こいつは皆の理解を超えていたようです。

のこぎりに挑戦だ！

頭を使ったあとは、いつものように森の中での観察会、草原広場に出たのですが、ｱｶﾏﾂの周りに菌根菌のﾇﾒﾘｲｸﾞﾁが踊りﾏｯﾀｹ状態(木の根元を中心にした同心円の円周上にﾏｯﾀｹが発生する有様)で発生していました。このｷﾉｺは食菌なのですがどうして食べるかと言う話で盛り上がりました。それでは！とさっそく昼食に登場しました。

作業ﾒﾆｭｰは、野鳥観察小屋の北側のｴﾘｱの機械刈り、竹林整備班はまず工作用に昨年ｽﾄｯｸした古竹の整理がﾒｲﾝ、選択的下草刈班は新しい萌芽更新ｴﾘｱの手入れ、ｸｽﾞ・ｾｲﾀﾀｶｱﾜﾀﾞﾁｿｳ退治班は水辺の林周辺での作業でした。昼食班は、ｶﾎﾞﾁｬのｼﾁｭｰだけのはずだったのですが、ｻﾂﾏｲﾓ、ｻﾗﾀﾞ、ｺﾏﾂﾅ、ｶﾌﾞなどをそれぞれ利用した料理が増えていました。例のﾇﾒﾘｲｸﾞﾁは採って来たものの「うーん、誰が料理するのよ！」と言うお言葉に、その場にいた盆栽ｵﾀｸが働き者の小学生R君を助手に、酢の物になって登場していました。傘の皮をむいたり傘裏のｽﾎﾟﾝｼﾞ状の管孔を取り除き、汁などに入れて食べる方法もありますが、家に伝わる方法で、お酢で炊いて味付けをしたようです。見た目はｳﾆ状態、山ｳﾆと称してﾋﾞｰﾙのあてにいただきました。。

お昼を頂いた後は恒例のﾐｰﾃｨﾝｸﾞですが、それぞれの作業班の作業紹介とｴﾋﾟｿｰﾄﾞを語っていただきます。その後、初めて参加した人からの一言や、この場で皆に言いたいことなどをお喋りいただくのが暗黙のﾙｰﾙです。ばらばらにそれぞれの作業をするだけでなく、皆で遊林会の活動に参加しているとの気持ちや自然観察会に加えて自然に対する知識を得る場になっています。その昔、ﾕｰｽ・ﾎｽﾃﾙのﾐｰﾃｨﾝｸﾞが嫌いで JYH 直営の施設を避けたりした覚えがありますが、森のﾐｰﾃｨﾝｸﾞはそうはなっていないだろうなと自問しながらの時間です。

11月23日(水曜日)　週日活動　森の居酒屋は11月9日　午後7時頃～

11月12日(第2土曜日)9時～(遅刻可)

主　催　者　：　遊　林　会

連絡先（遊林会事務局）：滋賀県 東近江市 河辺いきものの森 Tel 0748-20-5211 Fax 0748-20-5210
URL：http://www. yurinkai. org/　　E-mail：ikimono@e-omi. ne. jp　　森のﾌﾞﾛｸﾞは「かわべぇﾌｫﾄﾛｸﾞ」で検索！

第4水曜日は久しぶりに大勢が参加し、23名でにぎやかに作業を行いました。この日は竹の間伐作業を中心に作業。切った竹はきちんと材として使うため、立てかけておく竹の上部に雨水が溜まらないよう節で切り、太さ別にならべて子どもたちが竹を選びやすいようにしています。ベテラン揃いの上、人数も多かったので順調に作業が進み、おまけの作業として枯れ竹の整理なども実施して昼食となりました。

昼食は久しぶりに松本さん自慢のおからが登場、ﾓﾛｯｺ豆のごま和えやｻﾝﾏのﾑﾆｴﾙほか9品が並び、どれもこれもおいしく頂きました。

午後からは芋畑での芋掘り班とｻｻ機械刈り班に分かれましたが、数株程度なら楽しい芋掘りも数が多いと腰が痛くなり、芋掘りはもうええわ～との声があがっていました。

☆10月の木ままクラブ

気軽に気ままに木曜日に活動する木ままｸﾗﾌﾞ。10月は2回の活動を行いました。

10/13　7人　たき火をするﾌｧｲﾔｰｻｰｸﾙの上に被せる雨よけをつくってもらいました。これで多少の雨でも焼き芋が焼けるようになりました。

10/20　7人　第二駐車場側の竹林で枯れていた木を3本伐採してもらったあと、竹林内で折れていた竹を伐採してもらいました。

11月は17日が活動日です

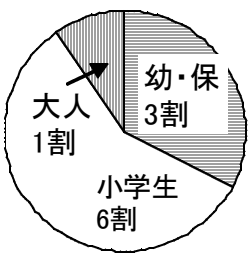
☆河辺いきものの森ｽﾀｯﾌルーム情報

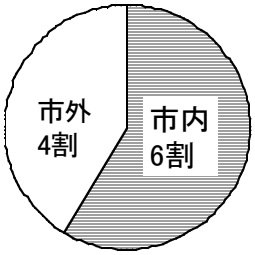
森の中にはﾄﾞﾝｸﾞﾘの帽子だけが大量に落ちている＝ﾄﾞﾝｸﾞﾘは子どもたちに拾われている場所がたくさんあります。それもそのはず、毎日のように学校単位で子どもたちがﾄﾞﾝｸﾞﾘ拾いを楽しみに来訪してくれました。ﾄﾞﾝｸﾞﾘはやはり人気が高いのですが、それ以外にも、ｶﾏｷﾘやﾊﾞｯﾀをつかんだり、けむりｷﾉｺとかﾊﾟﾌﾊﾟﾌｷﾉｺとか呼んでいるﾎｺﾘﾀｹやﾂﾁｸﾞﾘの仲間をさわって、けむり(胞子)を出したり(ｷﾉｺにとっては散布してもらえてﾗｯｷｰかな?)、秋の森を満喫して帰ってくれました。

「また来るね！」と言って帰る子どもたちの中には、休みの日に家族を連れてまた遊びに来てくれる子どももいます。しかし休みの日もｽﾀｯﾌは忙しくしていて、せっかく遊びに来てくれても、対応ができていませんでした。子どもたちも、いざ来てみたものの、学校での来訪の時のようなﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑがあるわけではなく、保護者にとってもどうしていいか分からずただ森を一周して帰ってしまう…ということが多々ありました。そこで学校で森に来てくれた子どもたちには、家族の人と森に来て、森の中で探し物をしてもらえるようなﾌﾟﾘﾝﾄを配布しました。すると、その紙を手に家族で森に遊びに来てくれました。子どもたちがこっち！ここで○○してん！と家族に森を案内していくれていました。目に見える反応はとっても嬉しいものですね。

森での遊び方を知らない子どもが増える背景には身近な自然の消失に加えて、保護者の自然離れもあります。たまにｽﾀｯﾌ顔負けの方もおられますが…とても少ないです。自然から遠ざかってしまった保護者の方にとっても、自然に親しんでくれるﾁｬﾝｽになれば、と思います。

ちなみに、10月に森を使用した団体をあげてみると、八日市幼・甲良東保育ｾﾝﾀｰ・むつみ保・中野幼・京都中島保育室・建部幼・寺幼・甲良西保育ｾﾝﾀｰ。小学校では八日市北1年・4年・愛知川東・日野・八日市養護・玉緒・竜王・稲枝西・湖東第二・稲枝東・能登川南・西大路・桐原・安土・西小。その他、聖徳中5回・主催10回、滋賀大などなど。グラフでは以下の通り。





・利用数
54回
・人数
2146人
・対応率
93%
・開園日
25日

小さい子どもから大人まで、市内外からも満遍なく利用されていることが分かります。また、視察では石川県能美市・奈良県生駒市・愛知県長湫・愛知県木曽川など県外から来られる方が多く、高い評価を受けている表れです。

☆モリイコ！の子どもたち

4才から小学校3年生を対象に年間10回森に来る活動「モリイコ！」。今回のﾃｰﾏは森で工作をしよう！です。工作は工作でも、企画の段階から4才の子どもたちにも刃物を使った工作をさせたい、という思いのなか、のこぎりと小刀を使った工作となりました。通常、刃物のを使った工作は小学校4年生からｵｽｽﾒしているﾚﾍﾞﾙなのですが、今回は4才も小刀を使います。小さな子どもでも作ることができて、楽しく、そして刃物を使えた！という自信がもてるような作品をｽﾀｯﾌは頑張って考えました！結果、子どもたちは不器用ながらも、興味津々、そして時間が立つと、初めて使ったとは思えないような自信満々の顔つき・慣れた手つきで自分の作品を作っていました。

☆11月の作業は…

作業に好適なｼｰｽﾞﾝです。竹林の間伐を中心に、のんびり楽しみましょう。

容器やコップは数に限りがあります。食器の持参をお願いします！

発行者：東近江市建部北町　河辺いきものの森ﾈｲﾁｬｰｾﾝﾀｰ内　遊林会　世話役 武藤精蔵　Tel　0748-20-5211
この用紙にはkikitoペーパーを使っており、滋賀県湖東地域の森の保全に寄与しています